


会 派 視 察 報 告 書

<p style="text-align: center;">調査・研究 テーマ</p>	<p style="text-align: center;">広島駅前市街地再開発事業について</p>
<p style="text-align: center;">目 的</p>	<p style="text-align: center;">再開発によるまちづくり</p>
<p style="text-align: center;">内 容</p>	<p>日時：２０１８年５月１７日（木）１４時～１６時 場所：広島市議会委員会室 説明者：広島市都市整備局都市機能調整部 都市再開発担当専門員 日下 英俊 氏 参加者：高柳 俊哉、土井 裕之、池田 麻里、浜口 健司 熊谷 裕人、政務調査員 報告書作成者：熊谷 裕人</p> <div style="text-align: center;">  </div>
<p style="text-align: center;">概 要</p>	<p>広島駅前市街地再開発事業は、昭和５６年３月に策定された「広島駅表口周辺地区市街地再開発事業基本計画」に基づき、広島駅南口ＡブロックとＢブロック、Ｃブロックの３つの事業が立ち上げられた。</p> <p>しかし大型商業施設を目指して第三セクターの株式会社が設立されたＡブロックを除いて再開発事業はなかなか進展を見なかった。最初に事業が終了したＡブロックでも、昭和５７年３月に市街地再開発準備組合が設立されたものの、その再開発ビルのオープンは、平成１１年４月と長い年月がかかっている。</p> <p>動きの遅かったＢ、Ｃブロックが動き出す転機となったのは、平成１５年７月に国の都市再生緊急整備地域に広島駅周辺が指定されたことで、ほとんど動きのなかった再開発事業が動き出して</p>

<p>概 要</p>	<p>いる。都市再生緊急整備地域に指定される大きなメリットである。</p> <p>Bブロックは、ビックカメラをキーテナントとした商業施設と513戸の分譲住宅、広島市総合福祉センター、大型駐車場などで構成された複合施設で、平成28年8月に工事が完了し、翌年3月に再開発組合の解散が認可されている事業。市の総合福祉センターは、事業が動かなかった時に先行売却された土地を購入していたために組合員の一員となっていた。</p> <p>Cブロックは、エディオンをキーテナントとした商業施設とスポーツ施設、473戸の分譲住宅と108戸の賃貸住宅、大型駐車場などで構成された複合施設で、平成29年1月に工事が完了し、本年中に再開発組合の解散が手続き中の事業。この場所には小規模な市場があったが、再開発後も施設内で営業を続けている店舗はごく少数。駅からマツダスタジアム方面への動線上に位置し、本年度中に完成する歩行者デッキを公共貢献のスペースとして認めている。</p> <p>質疑応答で広島駅の大規模改修と再開発の関連を質問した。特に連携はしていなかったが、駅の改修と再開発事業の完成時期のタイミングが合致したようである。広島市は、駅の東西自由通路事業に131億円の予算を投入している。</p>
<p>所 見</p>	<p>さいたま市でも昨年夏に国の都市再生緊急整備地域に大宮駅周辺が指定されていることから、広島市の事例は参考になった。</p> <p>遅々として進まない大宮駅東口の再開発事業を始めとした再開発事業が国の都市再生緊急整備地域指定のインセンティブを活用して大きく前進することを期待したい。</p> <p>地元の議員として大宮駅周辺再開発のラストチャンスと認識しているので、こどもたちの未来に負担をかけない手法での再開発事業を研究し、模索して行きたい。</p>
<p>会派基本政策</p>	<p>26. さいたま市のブランディング（都市イメージ）の強化に向けた地域資源の活用</p>